

□議員名：伊場 勇

1 県立おのだサッカー交流公園について

論点	県立おのだサッカー交流公園について 2019 年 8 月に県より市への施設移管の方向性が示されたが本市の考えと状況はどうか。
回答	現在、施設の維持管理費の全額を本市が負担しており、レノファ山口との連携等によりサッカーを主とするスポーツの拠点施設としている。また施設設備の老朽化が進んでいる中、県に対しては、人工芝の張替え、ナイター照明設備の LED 化、防球ネットの張替えを要望しており、県がその要望を全面的に受け入れられた際には施設移管を受ける考えである。

論点	サッカー場に隣接する緩衝緑地に駐車場を整備し施設環境を充実するべきではないか。
回答	特に土日の大きい行事において駐車場が不足している現状は把握している。今後を想定して、隣接する緩衝緑地との一体的利用について協議していく。

論点	施設のサッカー以外での有効活用も考えるべきではないか。
回答	現在グラウンドゴルフやアメリカンフットボール等の利用がある。ホームページ等も活用してこの施設の特性などをふまえ、見せ方をより充実しスポーツの拠点として市民に周知できるよう協議していく。

2 スマートシティの実現に向けて

論点	スマートシティの概念を本市ではどう捉えているか。
回答	さまざまな地域課題に対し、様々な先進的技術の活用により解決できる可能性が想定され、国が進めているスマートシティのモデル事業や他市の事例について常に情報収集を行うなどし、全庁的に協議をする必要があると考えている。

論点	スマートシティについての構想・計画の必要性をどう考えているか。
回答	スマートシティを推進するに当たって、まず必要になるのがICT等デジタル分野での専門的知識・技術、ノウハウを持った人材である。次に、そうした専門性のもとに地域、大学、民間企業とも協働して取り組むための推進体制づくりが必要であり、庁内においても、情報政策に関する専門部署を設置するという事も望ましいと考えている。構想を策定するには、さまざまな切り口から横断的に地域課題への洗い出しを行うことが必要であると考え、また職員のほか各種地域課題に関係する専門家の皆様と連携して取り組みを進めるための基盤となる協議会等を設置し具体的な取り組みへつなげていくことが重要であるとも考えている。

論点	スマートシティという言葉が庁内会議ででたことがあるか。
回答	これまででたことはない。今後取り上げていきたい。

論点	他市との連携についてはどうか。
回答	本市の実情に沿ってより大きな導入効果が見込めるICTの活用方法について導入ノウハウの共有やシステムを供用することにより、職員負担やコスト面での負担軽減にもつながるものと考えられるので、他市との連携についても今後も模索していきたい。

論点	県央連携7市町での協議はしているか。
回答	現在交流人口の増を中心に協議されている。今後スマートシティの連携について、検討できるよう随時申し入れをしていきたい。